



慶應義塾大学ビジネス・スクール

ひとつの医療機器が起こした、心臓弁膜症の治療革命 (A)

5

— 経カテーテル大動脈弁治療 (TAVI) —

2002年2月、日本、東京

10

循環器内科医の佐々木は病院に着くと、着替えを済ませ病棟に向かった。朝はまず十人前後いる受け持ち患者の回診をすることから始まる。病棟には、心臓カテーテル治療を済ませ ICU から戻った患者、心不全で点滴による薬剤治療を行っている患者など様々な患者がいる。ナースステーションで看護師から昨夜の患者の様子などについて簡単な説明を聞いた後、佐々木は特に気になる患者のベッドサイドに向かった。そして聴診や触診といった簡単な診察を終え、次の患者のところに向かおうとしたとき、その患者から「先生」と声をかけられた。

15

「もういい加減、良い歳なんだから、とは思うんだけどね、先生。でも何とかあと半年、頑張りたいね。ここまで来たら、ひ孫の顔が見たいじゃないか。」

ベッドの上で身を起こし、少し遠慮気味に話しかけてくる患者に、佐々木は微笑みかけた。

20

「一昨日、廊下で気を失いそうになっていたと看護師から聞きましたよ。少し無理をされているのではないですか。」

「俺は心臓の弁が悪いんだろう？先生。だったら、どうにかしてうまいこと取り換えられないのかねえ。そうしたら元気になるって、この間孫が言っていたんだよ。よくやっている手術なんだろう？」

ああ、まただ、と佐々木は思った。この数日の間、この患者とは何度もこの会話を繰り返している。

25

「できれば良いんですけどね。ただ、その手術をするには、もう少し体力が必要かもしれません。胸を

.....
このケースは、慶應義塾大学大学院経営管理研究科 後藤 励と米国医療機器・IVD 工業会 (AMDD) 医療技術政策研究所リサーチフェロー 児玉順子・緒方令奈により作成された。ケース内の企業名等のうち一部仮名の場合がある。なお、このケースはクラス討議のための資料としてまとめられたものであり、経営管理に関する適切あるいは不適切な処理を示すことを意図したものではない。

本ケースは慶應義塾大学ビジネス・スクールが出版するものであり、複製等についての問い合わせ先は慶應義塾大学ビジネス・スクール (〒223-8526 神奈川県横浜市港北区日吉4丁目1番1号、電話 045-564-2444、e-mail: case@kbs.keio.ac.jp)。また、注文は <http://www.kbs.keio.ac.jp/> へ。慶應義塾大学ビジネス・スクールの許可を得ずに、いかなる部分の複製、検索システムへの取り込み、スプレッドシートでの利用、またいかなる方法 (電子的、機械的、写真複写、録音・録画、その他種類を問わない) による伝送も、これを禁ずる。

30

Copyright © 後藤 励、児玉順子、緒方令奈 (2018年10月作成)